

草原がつなぐ人・自然・文化

全国草原再生ネットワーク

ニュースレター vol.43 (Jul. 2020)



牛のいる風景（島根県隠岐郡西ノ島町）

一般社団法人で再出発

一般社団法人全国草原再生ネットワーク
会長（代表理事） 高橋佳孝



現在、わが国を含む世界は、新型コロナウイルス感染症の拡大という難局に直面しておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

すでにご承知のように、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、当会（全国草原再生ネットワーク）においても本年度の活動は休止状態となっております。9月に予定されていた全国草原サミット・シンポジウム東伊豆大会は、来年度への延期が決まり、実行委員会も現在は開催自粛中です。また、これに合わせ取り組んできた「未来に残したい草原の里100選」の選定作業も、休止状態に陥っております。

しかし、自粛期間の空いた時間を有効に活用しよ

うと、本会の法人化の作業を進めてまいりました。「危機は変革のチャンス」というわけではありませ

んが、おかげさまをもちまして、この6月10日に「一般社団法人全国草原再生ネットワーク」（新法人）を設立する運びとなりました。新法人へ移行に際して、多大なご協力を賜りました理事・監事をはじめとする会員の皆様に謹んでお礼を申し上げます。

今後は一般社団法人として、草原の再生と利活用に寄与するという社会的使命を果たすべく、より一層努力いたしますので、引き続きご指導、ご鞭撻ならびにご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

一般社団法人移行の経過報告について

（ネットワーク事務局）

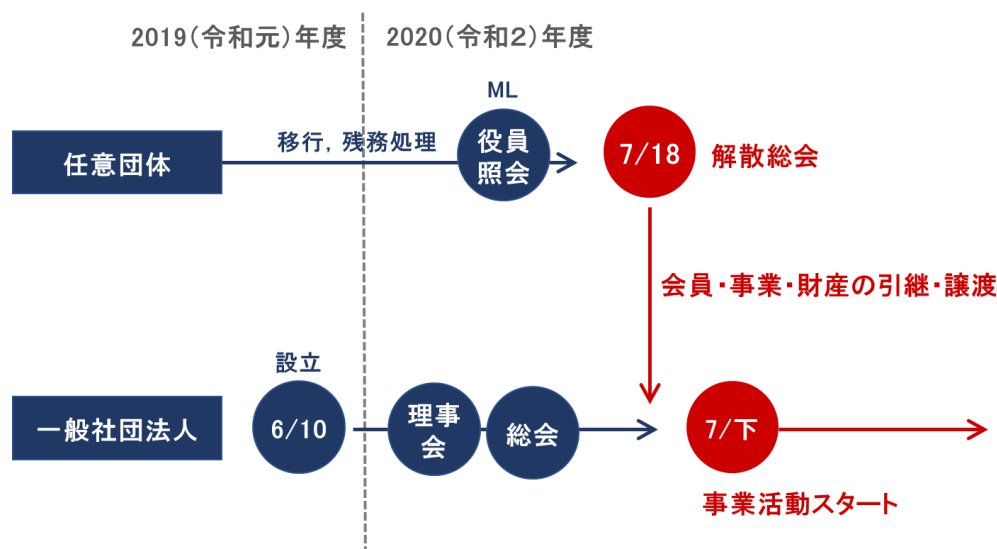
全国草原再生ネットワーク（以下、既存団体）では、「全国草原の里市町村連絡協議会」（自治体ネットワーク）の設立や「未来に残したい草原の里100選」（草原100選）への取り組みを契機にして、今後の活動の幅を拡大し、団体名義での契約や事業展開を可能とし、社会的信用を高めるために、また、将来の公益法人への移行も念頭におきながら、一般社団法人化を模索してきました。昨年（2019年）の第13回定時総会（2019年6月23日）においては、一般社団法人への移行を目指すことを決定していただきました。

以降、「一般社団法人日本茅葺き文化協会」をはじめ他の法人団体の意見や定款を参考に、事務局において役員ならびに司法書士と協議を行いながら、既存団体の社団法人化に向けた作業を進めて参りました。2020年6月5日には新組織の定款ができ、事

務局の近郊の会員により設立社員（設立時理事3名、監事1名）を選出し、定款認証を受け、様々な手続きを経て、6月10日に「一般社団法人全国草原再生ネットワーク」（以下、新法人）を設立いたしました。

7月18日には既存団体の第14回定時総会（解散総会）を開催し、会員、事業、財産の新法人への引き継ぎを行い、7月中旬より新法人の事業活動を開始いたしました。新法人に移行しても、活動内容、会費や会員（社員）へのサービスは基本的に変わりません。会員の皆様におかれましては、新法人「一般社団法人全国草原再生ネットワーク」の社員として再登録し、今後も活動や情報の交換の継続と当会へのご協力をお願いいたします。

なお、入会・登録の手続きなどに関しては、後日ご案内を差し上げますので、よろしく申し上げます。



【新法人の目的と事業】

全国で草原再生活動を行っている、あるいは、行おうとしている個人・団体の連携を通じて、草原の持っている価値・意義を再評価し、草原の保全・再生につなげていくことを目的とする。

- (1) 草原の保全と活用を実践する者のネットワーク化
- (2) 全国シンポジウム・サミットの開催支援
- (3) 草原の保全と活用を実践する団体・個人の支援及び情報提供
- (4) 草原の保全と活用に向けた調査研究、情報収集及び普及活動
- (5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

【会員】

会員は次の通りとし、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（一般法人法）上の社員とする。

- (1) 正会員：当法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する個人又は団体
- (2) 賛助会員：当法人の目的に賛同して入会し、活動を支える個人又は団体

【新法人の役員】（2020年6月10日現在）

代表理事（会長） 高橋佳孝（阿蘇草原再生協議会）
 理事 井上雅仁（島根県立三瓶自然館）
 理事 白川勝信（芸北高原の自然館）
 監事 荒木陽子（NPO法人緑と水の連絡会議）

【2020（令和2）年度の事業計画】

- (1) 草原データベース整備事業
- (2) 草原文献リスト整備事業
- (3) 草原植物データベース整備事業
- (4) 資料収集・管理事業
- (5) 情報提供事業
- (6) WEB 広報管理運営事業
- (7) シンポジウム・サミット支援事業
- (8) 連携・促進事業

（会員の特典）

入会いただくと、総会における議決権（正会員のみのみ）、季刊ニュースレターの配布、各種ご案内の送付、会員用メーリングリストでの情報交換、ホームページへの情報登録、事務局やホームページに保管されている資料の閲覧、現地見学会への参加、最新の知識や情報の入手、幅広い人脈の形成などの特典があります。さらに、当会主催・後援のイベントや社会活動、専門家からの提言、研鑽を積む機会を得られます。

また、全国規模のネットワーク組織ですので、全国各地での活動や事業の情報と共有することができ、ほぼ2年に一度開催される「全国草原サミット・シンポジウム」では全国から会員が集い、活動報告や研究発表を通してより幅広い交流が行えます。

全国草原再生ネットワークは、より多くの人との交流や、幅広い活動、事業の展開を目指して、2020年6月より一般社団法人となりました。この体制のもと、今後、草原の保全・再生活動に取り組むことの社会的地位の向上が期待されます。

草原をめぐる動き (2020年7月～2020年10月)

7/4-5 上ノ原防火帯刈払い・植物調査 (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

7/25 夏のボランティアガイド (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ) 7/26, 8/1, 8/2, 8/8, 8/9, 8/10 も開催

8/1 マルハナバチ調べ隊 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)

9/5-6 ミズナラ林の間伐と遊歩道整備 (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

9/5 マルハナバチ調べ隊 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)

9/19-20 茅葺屋根づくり体験 (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

9/19 霧ヶ谷湿原の植物観察会 (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: 西中国山地自然史研究会)

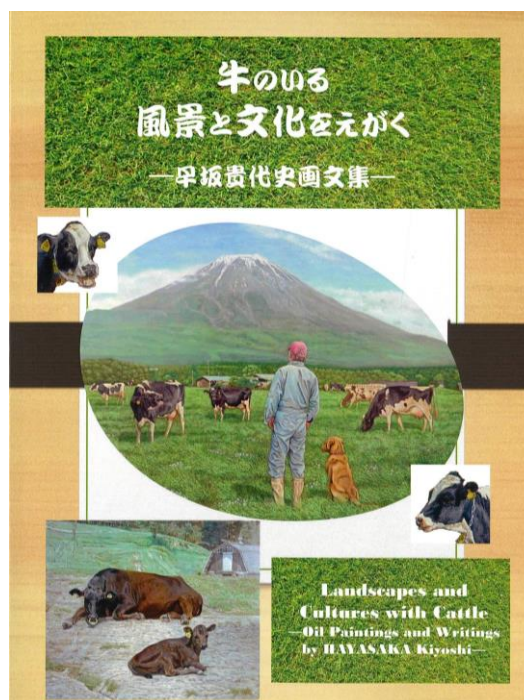
10/31-11/1 上ノ原の茅刈り (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

※予定が変更になる場合があります。上記以外の情報もホームページで随時公開しています。

書籍紹介 -牛のいる風景と文化をえがく- 早坂貴代史画文集-

本書はわが国の牛に関する多くの情報を含んだ画文集であり牛の文化誌です。著者が描いたわが国の牧牛のいる風景画 84 点と自らの見聞をもとに、地域の酪農、肉牛生産を紹介します。また牛に興味、関心をもって頂くためのさらなる情報として、わが国の牛事情と歴史文化の軌跡、および研究した牛の行動生態を解説します。さらに 19 世紀西欧の牛の自然主義絵画から当時の牛がどのように飼われていたかを論考しています。

これから畜産関係の職業を目指す方、畜産学専攻学生、畜産・酪農関係者、牛に関心がある都市生活者・消費者あるいは美術関係者などに一読をお勧めします。



全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol. 43 2020年7月号

一般社団法人全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 378-14

大田市ゲストハウス雪見院内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-86-8899

【編集後記】一般社団法人へと移行しましたが、引き続き、草原保全に関わる人々や団体のネットワークが築けるよう、活動を進めていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。